

市民から愛されるキャラクターは、市民の意見を取り入れ、市民合意のもとにやっていた、きたい。

建設業者の件は、常総市の公共事業を多く落札している業者である。市民から疑いの目を持たれるようでは困る。

再々答弁（産業労働部長）

会員の紹介等については、ホームページのリニューアルの中で検討していく。建設業者は趣旨に賛同して入っていただいているので、ご理解をお願いしたい。

（その他の質問）

きぬ温水プールの運営について市長の考えを尋ねる

質問

①きぬ温水プールの運営は、コスト削減による营利的運営の方向にするのか、また医療費削減効果を生む健康増進施設として運営していくのか。

②予防医学として健康増進に役立ち、疾病治療に大いに効果を上げ、医療費削減にもつながる水中運動が実証されている中、60歳からの水泳教室の再開を希望するが、市長の考えを尋ねる。

③きぬ温水プールの教室で廃止した教室は何か。また、廃止した理由を尋ねたい。その上で廃止した教室の再開と

○乗り合いタクシーの今後と市民コミュニティバスの導入について



千姫さまによる観光PR

中村 博美 議員

新しい教室を取り組む考えはあるか。

市長から、総医療費が増え続けているので医療費を削減する、また、維持管理費の見直しと適切な利用料を取っていくとの発言があった。きぬ温水プールの課題には、この両局面の問題が大きいのしかかっていると思う。維持管理費の観点から考えると、適切な利用料をとるべきとの考えもあるだろう。しかし、ハード面はあるがソフト面が少ないのが現状である。一人でも多くの市民にきぬ温水プールを利用していただくことが、

医療費の削減につながると信じている。

答弁（教育部長）

①市民が気持ちよく水に親しめる施設を目指し、健康増進施設として運営していく。

②水泳教室参加者には60歳以上の方が多く、そういう方の意見や要望を聞きながら、健康増進を目的とした水泳教室の開催を検討していきたい。

③指導者確保の難しさ、参加者の減少等の理由から廃止せざるを得なくなった。再開は、指導者や市民の意見、要望を参考に新たな教室への取り組みを含め検討していく。

答弁（市長）

プールの運営方針は、营利ではなく健康増進が目的である。結果的に医療費削減につながるので、積極的に予防政策と健康政策に力を入れていきたい。また、設備拡張よりソフト面の強化に力を入れ、利用者を増やしていきたいと考えている。

再質問

関係部署の連携を取って、高齢者水泳教室を開いていたきたい。男性も参加できる教室、男性だけの水泳教室の開催を要望する。また、無料の利用者が堂々と利用できるよう、働きかけていただきたい。

再答弁（教育部長）

開催方法、募集方法を含めて検討していきたい。健康増進策として無料化しているので、適切な運営に心がけていく。

再答弁（市長）

60歳以上の教室など、積極的に増やしていきたい。無料の方は堂々と行っていたきたいし、遠慮がちな気持ちを持つことは無い。男性の参加については、真剣に慎重に考えていきたい。

再々質問

予防医学と健康増進を分けて考えていただき、それぞれに力を入れていただくことを要望する。

石下地域、西幹線道路について（県事業）

風野 芳之 議員

質問

高崎坂東線については、21年12月の執行部提案で、わずかな金額の持ち出しで事業ができるはずの計画をつくっていただいたにもかかわらず、議会が否決したという経過がある。当時、5年間市道としての工事を行い、完成したら県道に戻し、当然管理は県になる。当時議員であった高杉市長はこの案件を反対した。

県道だから県が工事するのが当然というが、それではいつできるかわからない。だから

市道に認定をして、市が合併特例債を使い早急に実施しようとしたものである。市長としてどのような方策をもって早期実現させるか、自信を聞きたい。

現在、道路が杉山地区に250メートルから300メートルくらい残っている。年に100メートルくらい工事できると聞いているので、3年あるいは4年かかる可能性がある。当時は25年までに完成すると言っていたが、それでも2年、子どもたちは待つて



きぬ温水プール